

研究発表

アカイカ釣漁場の季節変化と漁場水温について

村 田 守 (北海道区水産研究所)
石 井 正 (北海道区水産研究所)
新 宮 千 臣 (北海道区水産研究所)

要 約

アカイカは1974年からスルメイカの代替資源としていか釣漁業によって利用されるようになり、その漁獲量は近年著しく増加している。ここでは、いか釣漁業の漁獲統計漁船からの聞取調査の結果、及び公表されている水温情報などから、1978~1981年の4年間におけるアカイカ釣漁場の位置と水温の季節変化について検討し、さらに回遊と漁場の形成要因について若干の考察を行った。それらの検討結果を要約すると、以下のとおりである。

1. 主要漁場 — 緯・経度1度柵目の年漁獲量が100トン以上の場所 — は $37^{\circ}\sim 47^{\circ}\text{N}$, $141^{\circ}\sim 170^{\circ}\text{E}$ の水域に形成されているが、その範囲と好漁場 — 同500トン以上の場所 — の位置は年によって異っている。 $140^{\circ}\sim 150^{\circ}\text{E}$, $150^{\circ}\sim 160^{\circ}\text{E}$ 及び $160^{\circ}\sim 170^{\circ}\text{E}$ の各水域における漁獲量の総漁獲量に対する割合(1978~1981年の範囲)はそれぞれ41.0~49.8%, 35.2~46.7%, 3.4~16.9%となっている。
2. 漁場位置の季節変化について次のような特徴が認められる。
 - (1) 漁期はじめ(7月)の主漁場 — 1度柵目の月漁獲量が100トン以上の場所 — は 40°N 付近で、 $152^{\circ}\sim 160^{\circ}\text{E}$ の水域に形成される。また、常盤~三陸の沿岸水域でも漁場のできる場合がある。
 - (2) 盛漁期(8~10月)の主漁場の範囲は東西方向に拡大し、 150°E 以西及び 160°E 以東の両水域にも形成される。 150°E 以西の水域では襟裳岬南東沖合域($40^{\circ}\sim 42^{\circ}\text{N}$, $144^{\circ}\sim 147^{\circ}\text{E}$)に好漁場 — 同500トン以上の場所 — ができやすい。 150°E 以東の水域の主漁場は9~10月に最も北上し、好漁場は $42^{\circ}\sim 44^{\circ}\text{N}$, $154^{\circ}\sim 159^{\circ}\text{E}$ の水域に形成されることが多い。
 - (3) 11~12月には 150°E 以東の水域における漁場は南及び西の方向に移動し、漁場の範囲は縮少する。この時期の漁場の重心は 150°E 以西の水域にあり、主漁場は8~10月の場合とほぼ同じ水域にある。
3. 主漁場周辺及び操業地点の表面水温は7~8月に最も高く、11~12月に最低となっているが、同一時期の水温値は年や場所によってかなり変化している。また、漁場と

して利用頻度の高い水温帯は表面水温 $11^{\circ}\sim 21^{\circ}\text{C}$ であり、沖合の漁場ほど低水温側に形成される傾向がみられる。

4. 漁期直前（6月）におけるアカイカは $37^{\circ}\sim 38^{\circ}\text{N}$ の沖合水域で、表面水温 $16^{\circ}\sim 21^{\circ}\text{C}$ 、表面塩分 $33.7\sim 34.8\%$ 、 100m 層水温 10°C 前後以上の暖水域に主に分布している。
5. 7～9月の主漁場は主として 100m 層水温 $5^{\circ}\sim 10^{\circ}\text{C}$ の水域（7～8月）から同 5°C 前後の等温線の密集した水域の周辺部（8～9月）に形成されている。また、それらの漁場は表面水温 20°C 以上の暖水域が北方へ張出し、約 15°C 以下の南下冷水域との間に顕著な潮境を形成している水域に相当している。10月以降の主漁場—襟裳岬南東沖合域を中心とする水域—は、表面及び 100m 層の等温線の分布状態からみて、暖水域（塊）と冷水域の衝合域に当たっているとみなされる。
6. アカイカは6～8月には黒潮系暖水分派の北方への張出しに沿って移動し（北上回遊期）、9～10月には亜寒帯収束線の周辺域や親潮系水の中の暖水域（塊）の周辺域に集合し（滞泳期）、11～12月には親潮系水の発達に伴って南方へ移動する（南下回遊期）と推測される。
7. 漁場の位置及び好・不漁は黒潮系分派などの暖水域（塊）と親潮系冷水域との間に作られる潮境や水温躍層の分布状態と密接な関連があると考えられる。また、襟裳岬南東沖合域では海底地形も何らかの関連がありそうである。

質 疑

北野（日水研）：最初の話でアカイカの漁獲量が20万トン位に達し、増加傾向にあると受けとったが、一時は漁獲量が減少し憂慮されていたやに聞いていたが、その点如何か。
新宮：近年、流し網による漁獲が多く、網の方が効率的に漁獲しているためと思われる。
推定漁獲量は、1980年16万トン、1981年16万トン弱、1982年20万トン前後である。